

水辺のふるさと かつしか

夏号

2024.3
-2024.5

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：お着替え中です
撮影場所：西水元 名前：ヤモリ 写真提供：瑛ちゃん

目次

- 1. 55種の動植物調査結果 P 2～5
- 2. 自由レポート P 6～35
- 3. 季節の写真集 P 36～41
- 4. 魚からの便り P 42～45
- 5. 環境課からのお知らせ P 46～48

担当編集の
ひとこと



こんにちは。環境課自然環境係の大野と申します。

6月9日に環境課主催で、「かつしか環境・緑化フェア2024」を開催しました。自然環境レポーターのブースには、有志のレポーターと作成した3種類のクイズのパネルも展示しており、約140人の来場者が挑戦していました。今回、紙使用量削減に貢献するための新たな試みとして、QRコードでの電子回答フォームを作成したところ、約1/3の挑戦者にご活用いただくことができ、嬉しく思っています。当日ご協力いただいた自然環境レポーターの有志の方々、誠にありがとうございました。

今年度の自然環境レポーターに関する活動においても、QRコードを活用していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

環境課自然環境係 大野

<p>コアジサシ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>ウグイス</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/></p>	<p>ギンヤンマ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/></p>	<p>トノサマバッタ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>
<p>ツバメ</p>  <p><input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>コサギ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/></p>	<p>アキアカネ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>クマゼミ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>
<p>オオヨシキリ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/></p>	<p>カワセミ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/></p>	<p>オオカマキリ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>アブラゼミ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>
<p>コガモ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>コゲラ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/></p>	<p>エンマコオロギ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>ツクツクボウシ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>
<p>ツグミ</p>  <p><input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>シジュウカラ</p>  <p><input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>カンタン</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>	<p>ミンミンゼミ</p>  <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p>

<p>ニイニイゼミ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>テングチョウ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ナガミヒナゲシ</p>  <p>○    </p>	<p>セリ</p>  <p>○ ○  ○ ○</p>
<p>ヤマトタマムシ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ツマグロヒョウモン</p> <p>←雄</p>  <p>雌→</p>  <p>○ ○  ○ ○</p>	<p>シロツメクサ</p>  <p>○    </p>	<p>オオバコ</p>  <p>○   ○ </p>
<p>ナガサキアゲハ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>アカボシゴマダラ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>スズメノエンドウ</p>  <p>○    </p>	<p>オオキンケイギク</p>  <p>○ ○  ○ </p>
<p>クロアゲハ</p> <p>←表</p>  <p>裏→</p>  <p>○ ○  ○ </p>	<p>アカメガシワ</p>  <p>○ ○  ○ </p>	<p>イモカタバミ</p>  <p>○    </p>	<p>カントウヨメナ</p>  <p>○ ○  ○ ○</p>
<p>ナミアゲハ</p>  <p>○ ○   </p>	<p>スギナ</p> <p>ツクシ ↓</p>  <p>○   ○ </p>	<p>アレチウリ</p> <p>果実 ↓</p>  <p>○ ○  ○ </p>	<p>カントウタンポポ</p> <p>反り返らない→</p>  <p>○   ○ </p>

<p>ツユクサ</p>  <p>○ ● ○ ○ ○ ○</p>	<p>ミシシippアカミミガメ</p>  <p>○ ○ ● ○ ○ ●</p>	<p>コガネグモ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ジュズダマ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ニホンカナヘビ</p>  <p>○ ○ ○ ● ○ ○</p>	<p>ジョロウグモ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ススキ</p>  <p>○ ○ ● ○ ○ ●</p>	<p>ニホンアマガエル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>メダカ</p>  <p>←カダヤシメダカの特徴に注意</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>アライグマ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ニホンアカガエル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ブルーギル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ハクビシン</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ウシガエル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ● ○</p>	<p>ベンケイガニ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>

晩春から初夏へ

関口雪枝

今年の季節の移り変りが例年と違うようである。コロナ以後いろいろな行事も単純化された。典型的なのが桜の開花予想で非常に遅れた。思い起こせば私の入学した時は桜の木の下を歩いて校門を潜った。国語読本には開くと最初に「咲いた、咲いた、桜が咲いた」と書かれていたのを今でも忘れない。小学校へ入学した時だったから八十数年が過ぎている。今年の花見の頃は開花予想に直前まで気を揉まされた。花見の頃は気候が不安定で日々服装の温度調節に忙しなかった。今でも寒暖挟みながら、夏に向かっている。それでも季節の花は春から夏へと移行している今頃が一番多彩で美しいだろうか……。

この間まで見事な躑躅^{ツツジ}やサツキが満開で賞味したが、今は紫陽花^{アジサイ}に移行している。そば降る雨の中に濡れる紫陽花の清々しい姿は梅雨の鬱々した気分から慰めてくれるのかと思いながら観賞する。

我が家に多彩な紫陽花が多数あるが殆ど挿し木で増えて確実に根付き、今は盛りである。まだもっと増やしたい気持ちが動くけれども、それらが根付いて大きくなるまで生きられるか？と思うと躊躇い、断念してしまう。

春の初めごろに若草色の新芽をつけたもみじの葉に春風がそよぐと、待っていた春が来たと思えて嬉しかった。今は葉の色は濃い緑色で秋口に赤くなるまで続く。

夫と共に伊豆七島の船旅を楽しんだのはいつの頃だったろうか……。息災で旅好きだった。大島から、新島、神津島など。島で明日葉の種を拾い帰宅後蒔いたら翌年多数の芽を出した。今でもそれを繰り返している。明日葉の名の通り数日後にはすぐに芽を出して大きくなる。若芽は胡麻和え、天ぷら。浸し等と重宝である。一年中収穫出来るのも嬉しい。

令和6年6月9日



梢の上のオナガ（東立石 自宅の隣家）

今回は、東立石付近の鳥たちの渡りの時期を確認してみました。

あくまで、東立石から旅立った時期なので、もうすこし別なところで、大きなグループにまとまってからわたっているかもしれません。

水鳥：

ホシハジロ 3月15日頃

キンクロハジロ 3月末頃

オオバン 3月末頃

ツグミ 3月末頃

ユリカモメ 4月末頃

ユリカモメの渡りの時期が遅いのには少々驚きました。

「中川は 右に左に 七曲り」中川・新中川の歴史・自然を歩く。

広瀬 温 (調査区2)

「かつしか郷土かるた」に「いくつもの 川が流れる 水のまち」とあるように、葛飾は荒川放水路、江戸川をはじめ、綾瀬川、大場川など多くの河川に囲まれている。そんな「水辺のふるさとかつしか」のまんなかを流れる中川は、荒川や江戸川のような「全国区」ではないが、葛飾の自然や暮らしと深く結びついている。中川沿いを散歩するのは近隣住民に限られるかもしれないが、通勤・通学や買い物など日々の暮らしで、中川の橋・鉄道橋を渡る区民は多いだろう。

西の武蔵野台地と千葉の下総台地にはさまれ、東京低地に位置する葛飾は、古くから利根川や荒川が東京湾に注ぐ「河川の通り道」にあたり、大きな水害にたびたび襲われてきた。上流から運ばれた土砂が堆積した沖積低地は勾配がわずかで、氾濫によって川の流路が変わる。かるたにある「中川は 右に左に 七曲り」、中川の曲がりくねった川筋は江戸初期に設けられた「亀有溜井」がもたらした流量の減少など中世以降の人の手による改変の結果と見る向きもあるが、流量や勾配を計算すると自然による蛇行と考える説が有力だ。

博物館ボランティア「かつたん」、中川を歩き回る

3月31日～5月26日、郷土と天文の博物館で「中川展～中川再発見」が開催され、博物館ボランティア「葛飾探検団(かつたん)」の一員としてフィールドワークを重ね、準備に取り組んだ。コロナ禍の活動休止期をはさみ、かつたんによる展示は2019年春の「立石展」以来、5年ぶりとなる。青戸に住んで24年になるが、この半年間のように何度も中川周辺を歩き回ったのは初めてだ。



総武線で都心に向かう際、荒川鉄橋の手前で北側に「上平井水門」が見える。温暖化により、水害のリスクが高まる中、台風による高潮、地震による津波に備える上平井水門は「葛飾を守る生命線」と言われている。水害対策では豪雨による洪水に目が向きがちで、高潮に対する区民の防災意識は高くないようなので、江東治水事務所に出向き、パネルにまとめてみた。

また、東日本各地で洪水を起こした2019年10月の台風19号により、改めて新中川の重要性が注目されている。直線化された新中川は自然が乏しいように思われがちだが、人工のワンドも整備され、川面にアシが繁茂する水辺の景観を取り戻しつつある。

「葛飾を守る生命線」上平井水門■大きな河川に囲まれた葛飾区は、豊かな水の恩恵を受けるとともに、大水害にたびたび見舞われてきました。東京低地を襲う水害は、豪雨による河川氾濫だけでなく、地震による津波、台風による高潮などさまざまです。■上平井水門は、中川・綾瀬川への高潮や津波の遡上を防ぐ水門で、幅30m高さ11m重さ220t程の門扉が4門並び、区民の暮らしを24時間、守っています。中川が綾瀬川と合流し、荒川放水路と並行して南流する地点に設けられ、上を首都高速「かつしかハーブ橋」が走っています。■2011年の東日本大震災では津波の遡上をせき止めるために、2019年の台風19号では高潮に備えて水門が閉じられました。気候変動による台風の大型化、将来予想される地震に備え、緊急時にも確実に水門の開閉を行えるよう、定期的に確認運転を実施しています。

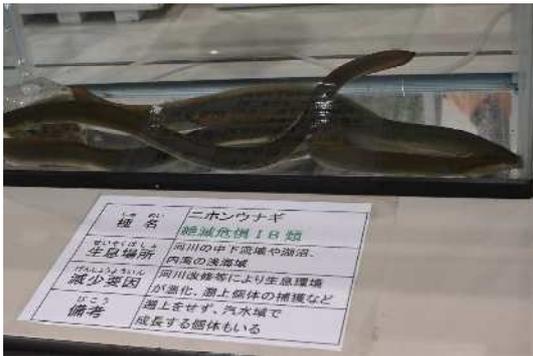


「こどもまつり」「環境・緑化フェア」で中川の生きものとふれあう

5月5日、郷土と天文の博物館「こどもまつり」に出向くと、「モツゴすくい」とともに「ベンケイガニ」が展示されていた。新中川の人工ワンドにすむという。トロ箱の中をワサワサと動き回り、ずいぶん大きい個体もいる。スポンジで隠れ家を作り、家でも育てられるようだ。



6月9日、毎年この時期に開催される「かつしか環境・緑化フェア」がテクノプラザで開催された。展示を一巡すると葛飾の自然環境の現状と課題を大づかみで



きる、情報たっぷりのイベントだ。NPO水元ネイチャープロジェクトのブースでは、水元公園で捕獲された特定外来種のカミツキガメや在来種のスッポンが生体展示され、子どもたちの人気を集めている。パネルによる説明展示の多い中、実物はやはりインパクトがあり、大人も興味深そうに寄ってくる。昨年6月、条件付特定外来生物に指定されたアメリカザリガニの隣りに、ニホンウナギがいる。朝から子どもたちが競ってつかもうとしたためか、夕方になるとグッタリし、ヌルヌルしていても簡単につかめた。

夕方、中川を回ると釣り人に出会う。スズキとともに天然ウナギ狙いのようだ。川はきれいになったとはいえ臭うので、清流を泳がせてから捌くという。旧江戸川から稚アユが瑞穂大橋で新中川に入ってくるが、中川の水源は羽生あたりなので、このまま遡上しても稚アユに未来はない。

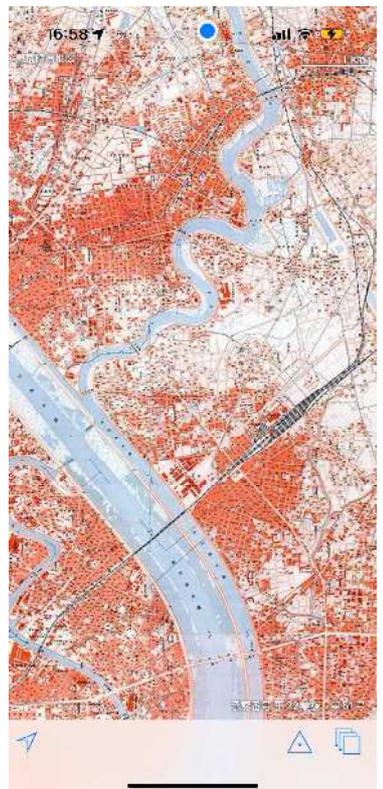
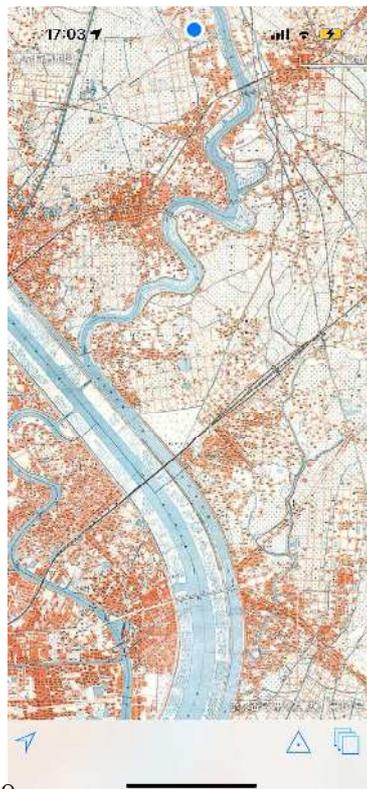
身近な河川の環境に目を向けることが葛飾の自然回復につながる。電車で川を渡る際はスマホから目を離し、窓の外に目を向けたい。満ち潮か、引き潮か？ 大潮の干潮時には、干潟で水鳥が餌を探す「水辺のふるさと」ならではの光景が観察できるだろう。中川の美味しい天然ウナギを味わえる日が待ち遠しい。



■空から見ると、中川の「七曲り」、荒川放水路で分断された下流の「旧中川」の蛇行がよくわかる。荒川放水路は今年10月24日「通水100周年」を迎える。

■右/1932年頃。荒川放水路浚渫工事完了直後。「奥戸総合スポーツセンター」周辺の湾曲部で直線化の工事が進んでいる。

■右端/1960年頃。高砂橋下流で「中川放水路」の工事が始まり、新金線橋梁掛け替えのためルート変更工事が進んでいる。中川放水路は1963年に完成、1965年「新中川」と改称される。(『東京時層地図』(一財)日本地図センターより)



2024年の春が訪れ、今年もまた「米づくり」が始まる。

広瀬 温 (調査区2)

例年よりかなり遅れて桜が咲き、春がやってきた。花が散り、若葉が芽吹くと、今年も田んぼのシーズンが始まる。川に囲まれた葛飾では、川が運んできた肥沃な土壌を生かした農業が1000年以上にわたって営まれてきた。高度成長期を経て、農地の宅地化が進み、1990年代に入ると区内から水田が消えた。現在、葛飾区内に米づくりを生業とする農家はない。

郷土と天文の博物館の前には、江戸のはじめから「葛西用水」が流れていた。もちろん博物館内の展示から葛飾の歴史・暮らしは学べるが、アタマだけでは地域の移り変わりはつかめない。土を触ったことのない子どもたちに、農業が盛んだった地域の暮らしを伝えるために始まった「米づくり体験教室」は今年で26年目を迎える。今年も50組140名を超える応募があり、抽選で選ばれた40名の子どもたちが田んぼに入って米づくりに取り組む。

4月21日、タロベエモチの種まき・苗代づくり

4月21日「米づくり体験教室」の説明会が開かれた。タロベエモチは関東南部の湿地で広く栽培されていた美味しいもち米だが、コシヒカリのように収量を増やすための品種改良がされてなく、背丈が高く、稲刈り機を使う収穫には不向きのため、今では越谷市などでわずかに栽培されている。

水に浸しておいた「種もみ」をじっくり観察。ごはんのお米とどこが違うか。親も初めて知ることばかりで、子どもたちと一緒に真剣に説明を聞いている。

まずは自分だけの苗代を作ってみる。プラスチックのコップにスプーンで大さじ3杯の土を入れる→芽出しした種もみを2~3粒まく→スプーンで大さじ1杯の土をかける。家庭に持ち帰ると、米の発芽~生長が観察できる。

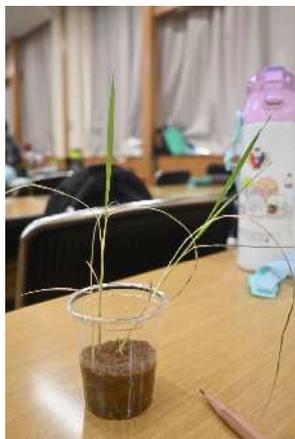
次に屋外に出て、苗代に種まきをする。日本人ならだれでも知っているように、米は直播きせず、苗代で発芽させ、根づいて育ったら田植えをするのが一般的だ。もともと熱帯性のイネには日本の春は寒いようで、直播きだと鳥に食べられる恐れもある。

苗代、どこにあったっけ?・・・今は箱を用いた「箱苗代」が一般的で、温度管理された屋内で栽培されるという。何も知らずに毎日ごはんを食べてきた自分に呆れる。

土を敷いた箱苗代に種もみをまんべんなくまき、薄く土で覆い、たっぷりと水をやる。イネは生長するにつれて葉の数が増えていく。今回は3~4葉に育ったイネを田に植えるが、機械で植える農家では1~2葉の苗を用いる。5月の連休に郊外に出かけると、田植えをよく見かけるが、そういうことか。

秋の収穫後も水田から水を抜かない「冬期湛水田」のため、生きものが生命をつなげる。雑草が生えにくい利点もある。田植え前の田んぼを覗くと、カルガモが2羽くつろいでいた。至近距離に寄っても、逃げない。警戒心のなさに驚く。





5月26日、夕ロベエモチの田植え

家庭に持ち帰った苗も3~4葉に育ち、自分の手で田んぼに植える。箱苗代に種をまき、博物館スタッフが欠かさず水やりをしたイネは昨年より育ちがいい。

「田んぼサポーター」の方々の準備により、今年は例年以上に田植えがしやすい本格的な田んぼに仕上がっているようだ。子どもたちが恐る恐る田んぼに入ると、足を取られる子が続出する。

踏ん張って、鉛筆を持つようにイネをつまみ、泥の中へ差し込んでいく。しっかり差し込まないと浮いてくる。「田んぼサポーター」のみなさんの指示に従い、張られたロープのビーズを目印に等間隔に植えていく。足元を慣らしながら、後ろに下がる。米づくりが協同作業だとよくわかる。子どもに苗を渡す役割の親にも田植えの経験がなく、子どもと一緒に試行錯誤だ。3~4回と繰り返すうちに子どもたちも慣れてきて、テンポが上がる。

取水口に仕掛けた「筥」に大きなドジョウが入っていた。田んぼを見ると、おたまじゃくしが泳いでいる。又マガエルのような。これまで博物館の田んぼにはカエルがいなかったので、夏に向けて楽しみが増えた。



氾濫を繰り返す河川は肥沃な土壌を葛飾にもたらした。水路にはナマズやドジョウが流れ込み、貴重なタンパク源となった。博物館

の田んぼの下には今も暗渠で葛西用水が流れ、令和のおたまじゃくしが流れ込む。曳舟川親水公園に設けられた田んぼは、江戸からの用水のネットワークにつながっている。令和の子どもたちが、悠久の時を経た土と戯れ、水と太陽の力を借りて新しい実りを待つ。

昨年とは違う米づくりが今年も始まった。自然相手の米づくりは一年がかりだ。毎年毎年、自然条件は異なるが、26年間の経験を活かし、次につなげる。博物館の米づくりは、子どもたちの手によって、葛飾の自然・文化を未来に伝える。伝えるのは、知識ではない。河川に育まれた土と格闘して子どもたちが感じた手ごたえ、家でごはんを食べながら親子で話す田植えの実体験・・・身体を使った経験が未来を拓く宝物になる。

葛飾の自然環境を考える上で「田んぼ」の存在は欠かせない。田んぼは「米の工場」ではない、葛飾の生態系は田んぼに支えられてきたのだ。

田んぼを観察していると、自然環境だけでなく、かつての葛飾の暮らしも見えてくる。今年も田んぼを観察しながら、葛飾の暮らしの変化、生物多様性の移り変わりを見守っていききたい。



水辺のふるさと葛飾

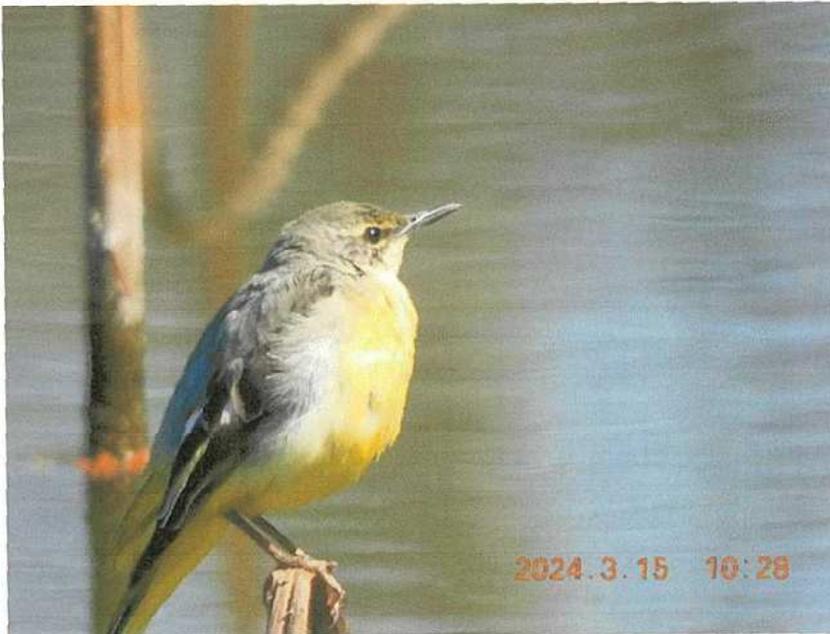
自然観察レポート

2024年3月～5月

石戸雅彦 調査区3



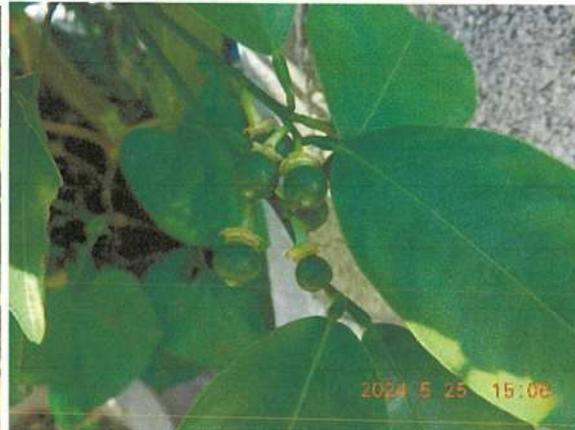
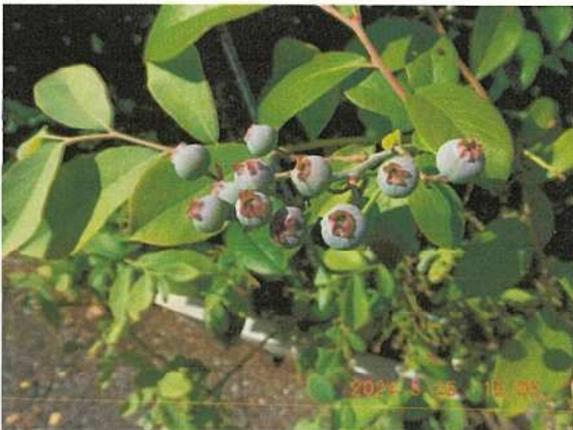
水元公園の湿原地にてオオタカのドバトの捕食シーンが見られました。1時間ほど人目を気にせず食事をしております。衝撃的なシーンでした。



水元公園のハス田にアイドルのようにポーズを撮るキセキレイの幼鳥が見られました。何人が写真を撮っていますが気にすることなく長い間ポーズを撮っていました。



水元公園の湿地帯に今年も夏鳥のオオヨシキリが東南アジアから訪れました。ギョギョシ、ギョギョシと力強い声で鳴かれています。



今年も家庭の庭に実のなる果実が実りました。レモン（今年初めて実りました。4年目）ブラックベリー、ブルーベリー、ゆずです。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2024年3月30日

花見の季節

花見の季節ですが、私はこのレポートの写真でも撮りに行くかということで、フラッと土手に行ってきました。

暖かく、晴れた日で、ひばりが、鳴いていました。長く鳴くので、すぐに判ると思います。かなり上空なので写真は撮れず、空振りで帰ってきました。

桜が咲く前、もうすでに暖かかった日、見舞いで都心部の病院に行き、早く着いたので、小さな公園で待つことにしました。

ヨーロッパ系と思われる方が20人ぐらい、いらっしゃって、休んでいました。

日本人らしき人は皆、ベンチに座っていて、私もその例にもれずベンチに座ったのですが、ヨーロッパ系の方は、地面に座っている方が多く、芝生の上に直接、カップルで寝そべっている方もいました。

寝そべった男性のお腹をまくらにして女性も寝そべっていて休んでいました。

レジャーシートとか敷かないんですね。

手ぶらで公園に行って、気が向いたら直接ごろ寝してしまうという。

TVで北欧などは、短い日の当たる季節に日光浴をする習慣があるというのを見たことがあります。

うるおぼえですが、レジャーシートを敷いているイメージがないんですよ。

カッコよく見えたので、私も飲み物を持って行き、土手とかでやろうかと思っています。コーヒーかな？水の方がカッコいいかもしれません。

桜の季節に限定されず、色んな季節に楽しめませし。

ベンチは年配者の方に譲れるメリットもあります。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2024年4月14日

高級時計



スミレ

区内北西部 令和6年4月14日

スミレです。春を知らせてくれます。

小さな花で、じーっと見ると、その精緻さは高級腕時計のムーブメント(中の機械)を見るのと近い喜びも。ゆっくりですけど動きますしね。

葛飾区は、月の満ち欠け(潮の満ち引き)で、日によっては川が逆流したりもします。

メジロ生態系

- 鳴き声 … 小さくチィチィ
- 大きさ … 12cm 位
- 特 徴 … 黄緑色・風切羽は先にいくと濃い。脚とくちばしは鉛色。

考察

- 桜が満開になり始めたころ、つがいで公園の柵に止まっているのを見かけました。
動きが速く、枝や地面を飛び回っていました。
人が増えて来ると桜の木の上へと移りました。桜の花の蜜を好む様です。



葛飾区自然環境レポーター 自由レポート (2024年3月～2024年5月)

氏名：江戸川の小鮎	調査区：主に 5-24、5-26、4-23	町名：東金町
-----------	-----------------------	--------

3月12日(火) 東金町7丁目地先 江戸川堤防



アブラナ科の植物

江戸川堤防上に出ると、すでにアブラナ科の植物が咲き乱れ、すっかり春満開の雰囲気だった。季節は一気に冬から春へと移り変わっている。こちらのアブラナ科の植物が生態系にどのような影響を与えているのかどうかは定かではないが、毎年当たり前の景色となっている。

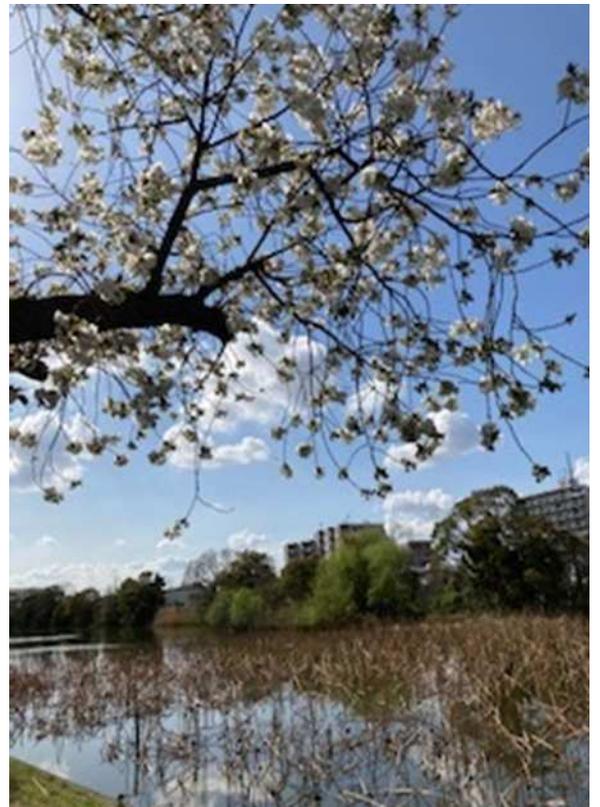
あらためて花というのは、人の心を温かくしてくれる作用があることは間違いない気がする。

4月7日(日) 水元公園

新緑の眩しい季節がやってきた。エノキの大木のみずみずしい新緑の葉が何とも美しい。さらに奥の小合溜沿いに植えられている桜は、品種は定かではないが毎年必ず観賞させていただいており、これまた非常に美しい。公園に植えられる桜はどうしてもソメイヨシノに偏りがちだが、桜も品種がたくさんあるのでできるだけ多様な種類の桜を植えてほしいところ。



新緑が眩しいエノキの大木



小合溜に覆いかぶさるように咲き乱れる桜

4月15日(月) 金町6丁目マンション1階及び東金町1丁目民間駐輪場

●マンション1階入口

ツバメが1羽巢の中に。もう1羽は別の場所で過ごす。昨年はカラスに巢が襲われて巢を放棄してしまい繁殖は失敗。今年はどうか。

●民間駐輪場

・昨年は6羽のヒナが巣立った。カラスが駐輪場の入口付近に来ることあり、追い払っているとのこと。ヒナが巣から落ちることがあり、脚立で戻したこともある。今年はまだ巣の補修段階。

●外でイソヒヨドリの囀りが聞こえる。2月以降、金町駅前のビルの上でイソヒヨドリを毎日のように目撃しているが、皆さんのお住いの地域ではいかがだろうか。海岸部から内陸部へ進出し数が増えている様子。今後、イソヒヨドリについても調査していきたい。



親鳥のエサをまつツバメのヒナ

4月15日(月) 水元公園小合溜

- ・ユリカモメ：夏羽（顔が黒い）
- ・ヒドリガモ：40羽。ここ数日気温が高かったが、北方に渡っていないものがまだいた。
- ・キンクロハジロ：オス1羽
- ・ツバメ
- ・ウグイス：2羽囀り。

公園内は新緑が眩しく様々な種類の桜がまだ咲いており、何とも爽やかで清々しい。

5月5日(祝) 水元公園小合溜

小合溜の上空をコアジサシが2羽ヒラリヒラリと飛んでいる。

5月12日(日) 水元公園小合溜



小合溜にスイレンの花が咲いていた。あらためてよく見ると、実に気品がありその美しさにほれほれとした。

5月20日(月)江戸川堤防・河川敷(東金町8丁目→7丁目→6丁目)

・東金町8丁目の江戸川堤防や河川敷には毎春にキジの鳴き声やその姿を見ることが多いが、今年も堤防の草原内を歩くオスのキジ1羽を確認した。あらためて間近で見るととても大きく美しい。こんな至近距離でゆっくりと観察できるのは何ともありがたい。また東金町8丁目の河川敷は国交省の残土置き場になっているが、こちらにも植物が繁茂し、オオヨシキリの威勢のよい囀りが賑やかだ。自然環境レポーターの皆さん、また、この記事を目にした方は、春先の埼玉県三郷市と葛飾区の都県境の江戸川を散策して、様々な生き物に触れていただければと思います。

・東金町6丁目までの江戸川堤防付近を移動している間に、ヒバリ6羽・ツバメ4羽も確認することができた。



キジ(オス)

5月24日(金)東金町1丁目民間駐輪場、金町6丁目マンション

・その後、ツバメはどうなったかと思い、オーナーに声を掛け巣の様子を見せてもらった。5羽のヒナのうちのすでに2羽は巣立っていた。残りのヒナ3羽は親鳥が巣に戻ってくると必死に餌をねだって鳴きながら口を大きく開けているものの、親鳥は一向に餌を与えずに駐輪場内に停めてある自転車のハンドルの上に留まり、ヒナたちの巣立ちを促しているようだった。オーナーさんご夫婦はご高齢で、ツバメのためにいろいろ世話ができるのも今年まで



とのことで、残念ながら金町駅周辺で最も安定的に子育てができていたこちらの巣は、今年が最後となる見込み。今年も巣から落ちたヒナを巣に戻したり巣から落ちた糞の始末をしたりと、目をかけ手をかけて大事にツバメの子育てを応援して下さいました。

・金町6丁目マンションの方はというと、こちらは2つの巣のうち1つでヒナの子育てを確認することができた。親鳥はヒナにせっせと餌を運んでいた。



エサをヒナに運ぶ親鳥



巣直下にある糞用のゴミ箱(マンションの管理人さん作成)

氏名 となりの母 調査区4 2024年3月～5月
鎌倉町の自宅の庭だけを観察対象としています。



↑ 3月3日チューリップの球根を植えた場所をネズミに掘り返された。深さ13cmくらい。球根は見当たらなかったもので、持ち去られたか、食べられたと思う。この時期の球根は糖分を蓄えて美味しいらしい。10年以上植えていて初めての被害。



↑ニホンカナヘビ 3月29日 小さい個体を確認



↑ニホンカナヘビ 3月31日 大きい個体を確認



↑ハギ 5月17日 きれいに丸く切り取られ葉がたくさん。誰の仕業？



↑ハキリバチがやって来た。



↑葉を丸く切っている。あっという間に抱えて飛んで行った。少しすると戻ってきて、これを何回も繰り返していた。

大谷 悦子	町名：南水元	調査区：5-28
-------	--------	----------

【3月】

気の早い草は2月にも花を咲かせていましたが、3月も末頃になると本格的に伸びてきてあっという間に沢山の花を咲かせていました。

フラサバソウ、コゴメイヌノフグリ、オオイヌノフグリはオオバコ科クワガタ草属の仲間です。花の大きさは3ミリ、5ミリ、10ミリと違いますが、どれもよく似ています。

アメリカフウロは日当たりの良い歩道の隙間に咲いていました。



3/15 水元公園
フラサバソウ



3/17 水元公園
コゴメイヌノフグリ



4/3 南水元
オオイヌノフグリ



3/31 東水元
アメリカフウロ

ヒメスマレ、スマレは、スマホのレンズ機能で調べました。どちらも日当たりの良い歩道のアスファルトの隙間に咲いていました。イヌホオズキ、ナガミヒナゲシは道路脇の植え込みに咲いていました。



3/25 南水元
ヒメスマレ



3/31 東水元
スマレ



3/31 南水元
イヌホオズキ



3/31 東水元
ナガミヒナゲシ

ノヂシャは水元公園では、江戸川の河原近く、野球場のあるところで見かけましたが、南水元でも、道路脇の植え込みに咲いていました。シロバナタンポポは水元公園で見ましたが、他では見かけませんでした。カントウタンポポは、水元公園以外にも南水元の道路脇の植え込みに所々で咲いていました。セイヨウタンポポも多くあり、間の子かな、と思うようなもの、もありました。つくしも水元公園以外にも道端でもよく見かけました。



3/31 水元公園
ノヂシャ



3/17 水元公園
シロバナタンポポ



3/2 水元公園
カントウタンポポ



3/16 水元公園
つくし

ツタバウンラン、キュウリグサは道端でたくさん見かけました。イヌコリヤナギ、つげの仲間、水元公園です。



3/28 南水元
ツタバウンラン



3/15 南水元
キュウリグサ



3/2 水元公園
イヌコリヤナギ



3/10 水元公園
つげの仲間

他にも、道路脇には、カタバミ、イモカタバミ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ボロギク、菜の花、ツルニチニチソウ、ハナニラ等々いろいろな花が咲いていました。

【4月】

4月の始めに咲いていた花は4月の終りにはもう実を付けていました。カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサを並べてみました。カラスノエンドウは花も大きく、実も大きいのでわかりやすいです。カスマグサとスズメノエンドウは見分けにくいですが、一番の見分けのポイントは実（さや）の中の種子の数です。カラスノエンドウは5~10個、カスマグサは3~6個、スズメノエンドウは2個です。

実は上から、葉は左から、カラスノエンドウ、カスマグサ、スズメノエンドウです。



4/6 水元公園
カラスノエンドウ



4/25 南水元
カラスノエンドウ (実)



4/26 水元
スズメノエンドウ



4/26 水元
スズメノエンドウ (実)



4/27 東水元
カスマグサ



4/27 東水元
カスマグサ (実)



4/27 東水元 カラスノエンドウ、カスマグサ、スズメノエンドウの実と葉



シロツメクサ、ムラサキツメクサ、コメツブツメクサは同じ仲間です。花は色も違うのでわかりやすいですが、シロツメクサとムラサキツメクサは芽生えの頃は見分けづらいです。アメリカフウロも実が付けていました。



4/6 水元公園
シロツメクサ



4/6 水元公園
ムラサキツメクサ



4/6 水元公園
コメツブツメクサ



4/27 東水元
アメリカフウロ (花、実)

ヤセウツボは花の後、茶色くなってたくさん生えているので目立ちますが、出たばかりの頃は、こんなに綺麗です。ショウブは菖蒲湯にする方の菖蒲で、アヤメ科の花菖蒲とは異なります。真ん中の筆のようなものが花です。ニシキギの花は目立たない小さいものです。マユミはまだ蕾のようでした。



4/21 水元公園
ヤセウツボ



4/21 水元公園
ショウブ



4/21 水元公園
ニシキギ



4/21 水元公園
マユミ

タガラシは菖蒲田の縁、キランソウは水辺のさと、キツネアザミは蓮池近くにそれぞれ 1 カ所生えていました。



4/3 水元公園
タガラシ



4/6 水元公園
キランソウ



4/16 水元公園
キツネアザミ



4/6 水元公園
ヒメウズ

クマシデは原田小学校の体育館の所に生えていました。
アオスジアゲハは水辺の里で、羽化したばかりなのか、じっとしていました。



4/21 水元公園
カキツバタ



4/22 東金町
クマシデ



4/6 水元公園
ムラサキサギゴケ



4/21 水元公園
アオスジアゲハ

【5月】

今月も似た花を中心に観察してみました。

カタバミはいろいろな種類がありました。カタバミ、オッタチカタバミ、アカカタバミは実を沢山付けていました。最近よく見かける、ムラサキカタバミ、イモカタバミ、オオキバナカタバミは、花はよく見かけるのですが、実は見かけませんでした。ベニカタバミ、オキザリス・トリアングラスは花壇から逃げ出したものかもしれません。やはり、実は見かけませんでした。カタバミ、アカカタバミ以外は外来種です。



5/14 南水元
カタバミ



5/14 南水元
オッタチカタバミ



5/3 南水元
アカカタバミ



5/3 東金町
ベニカタバミ



4/27 南水元
ムラサキカタバミ



5/3 東金町
イモカタバミ



5/3 南水元
オオキバナカタバミ



5/14 南水元
オキザリス・トリアングラス

オオバコの仲間も似たものを集めてみました。在来のオオバコはあまり見かけなくなり、水元公園で踏まれているのをやっと見つけました。ヘラオオバコは道端にも土手にも水元公園にもたくさんありました。ツボミオオバコも水元公園や道端にありました。ちょっと見るとオオバコと似ていますが、全体につるつるなのがオオバコ、毛が生えているのがツボミオオバコです。オオバコ以外は外来種です。

メリケントキンソウは道端で見ました。小さい花で、今年初めて咲いているのに気がつきました。



5/19 水元公園
オオバコ



5/14 南水元
ヘラオオバコ



5/4 水元公園
ツボミオオバコ



5/14 南水元
メリケントキンソウ

ヒナキョウソウは道端に生えていました。花は大きくありませんが、紫色が目立ちます。オオキンケイギクは特定外来生物ですが、団地の花壇や、畑、玄関先などにありました。去年はあまり見かけなかったように思いますが、今年は四カ所で見かけました。

ナミアゲハ、コシアキトンボは、羽化したばかりのようで、じっとしていました。



5/3 東金町
ヒナキョウソウ



5/9 東金町
オオキンケイギク



5/8 水元公園
ナミアゲハ



5/19 水元公園
コシアキトンボ (メス)

ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、セッカニワゼキショウはどれも北アメリカ原産の仲間で似ています。ニワゼキショウとオオニワゼキショウは混生していることも多いようで区別が付きにくいですが、セキショウはピンク、オオニワゼキショウは白っぽいものが多いようですが、白っぽいニワゼキショウもあります。セッカニワゼキショウは今年初めて気がつきました。花卉の先が尖っていて、少し感じが違います。

ミゾコウジュは水辺の生きもの館の入り口に生えていました。準絶滅危惧種なのですが、意外なところに生えていてびっくりしました。



5/4 水元公園
ニワゼキショウ



5/4 水元公園
オオニワゼキショウ



5/21 水元公園
セッカニワゼキショウ



5/19 水元公園
ミゾコウジュ

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和6年 3～5 月 観察日 10 日)				

種類	3月	4月	5月	種類	3月	4月	5月
セイヨウタンポポ	5	700	0	シロツメ	0	0	0
ツクサ	0	0	0	ユリカモメ	15	10	0
シジミチョウ	0	8	2	カモ類	170	50	20
クロアゲハチョウ	0	0	1	アオサギ	1	1	1
モンシロチョウ	0	5	6	コサギ	1	1	0

① カントウタンポポの花数

令和6年3月昨年同様、路地観察でカントウタンポポを多数発見

- ・ 3月20日金町5丁目路地 (30個)
- ・ 3月31日水元某公園 (多数)
- ・ 3月20日水元公園土手 (10個)
- ・ 3月26日東金町4丁目駐車場5個
(5年は100個以上、令和4年は5個)
- ・ 4月4日金町3丁目路地 (6個)



今年の温度はカントウタンポポにあっていただけ多数みられた。

これって本当に路地の花なの

自宅から金町駅までの路地には、薬物がコンクリートの隙間に成長しているが、高温で枯れも早かった。なぜか、花の色は路地も庭も鮮やかで思わず魅入った。



② ツバメの巣づくり観察

- つばめの飛来は4月初旬、南水元方面で1羽確認した。
東金町4丁目～3丁目の観察の巣は、例年3箇所あったが、昨年カラスに雛をとられたことが影響しているのではと不安があった。

A地点・5月11日、古い巣にツバメは飛んでくるが、巣作りをしない。

B地点・巣は3カ所あり、5月初旬、1個に親鳥が入っていることを確認
5月18日巣1個に雛2～3羽？ 他の二個には親もいない
(昨年は二回ともひなが5羽以上巣立っているが今年は1個のみで
巣立ちも遅れている)

C地点・個人の駐車場 巣はあるが、親の確認できず。

商店街の頭上にはカラスが啼き飛んでいる。小さなツバメらしき鳥もいた。
お店の入り口を覗いてみる。ある日、駐車場に巣を見つけた。

D手点 5月中旬、3丁目商店街の某駐車場に小さな巣が作られて抱卵確認
糞の落下で利用者からの苦情がでないか？無事巣立ちができるか？



ツバメはもう来なくなるのだろうか？

ツバメの雛の巣立ち数は平成30年の記録では、平成28年の24羽が最高数
令和は16羽が続いていた。今年の数値が5～6羽？最低数になりそうだ。

被害記録は毎年あり、原因はカラスによる。

商店路地以外に巣はないか？

水元公園近所の住人から話をきくと、ツバメの巣作りは周囲にないという。

人通りがないとダメらしい。だが、この地域の過去の空き巣確認はすでに6箇所ある。
巣作りを一度止めると空き巣になる率が高いから心配だ。

資料 ツバメの渡り先（日本の野鳥→河出書房発行より）

冬は東南アジアに越冬するといわれているものの、正確な先は十分に解明されているとはいえなかつた。これまでの標識個体の回収記録によると、日本から南下したツバメは台湾を経由し、フィリピンへ渡っていることがわかっていたが、最近ベトナム、ボルネオ、インドネシアでの回収記録が判明した。約6700kmを渡ったことが実証された。中略

カワセミ観察会に参加して・・・

令和6年4月29日 神山隆敬

4月14日（日）午後1：00より、『水元かわせみの里』で『カワセミの観察会』が行われた。まずは、『カワセミと言う生きものとは』から始まり、『カワセミと東京』『カワセミと水元かわせみの里』などを語って頂けた。話すと長くなるので、興味がある方は、是非、『水元かわせみの里』へ行って話を聞いて欲しいものです。

只今、カワセミ繁殖期などで、『水元かわせみの里』から見える池での、カワセミの回数はかなり減って来たとのこと??今日もカワセミも現物の観察は難しいと思っていたところ...「外でカワセミのいる所を観察しましょう...」と外へ出て、講師の野間さんがいくつか説明している途中で、急に東からカワセミが意外と低空飛行で（私の感覚で）現れて『かわせみの池』へ向かって行った。

みんなで『かわせみの池』に向かい「いた〜っ」とメスのカワセミがサービス満点、わざわざ観察しやすい所へグイグイと...うわっ、まるで、**カワセミのお嬢様**からしてみれば**「待っているのに時間かかり過ぎよ〜」**とでも、言うかのように、色々な方向性で観る事が出来ました。最初は木の陰に隠れたり、「ほら、ほら、あそこ〜、右から、

○番目の木の葉っぱの辺り」から始まり、最後には「わ〜っ、良く見える、見える」と、かなり手前に来てくれて、ゆっくりと観られて、皆さん大喜び...そんなこんなで興奮止むこともなく、巣になるような穴を見つけたり、「メスが来たから、オスはどこかに居るよね。」などと話し合ったり、あっという間に終わる観察会でした。

観察会が終わって、私は、「繁殖期には、なぜ、ここへは来なくなるのですか？」から始まり、普段のテリトリーと繁殖期の事を『**水元かわせみの里**』で聞いていて、「**巣の中にカメラを入れて観察した記録でもあれば...**」と見せて頂いたのが、(株)カンゼンから出ている『**にっぽんのカワセミ**』と言う本の72~73 ページに**巣の中のヒナの行動**が書かれてあり、『7羽のヒナいて、1番の先頭にいたヒナが親から餌を頂くと、巣穴入口に糞をすると、左回りに後ろにまわり、列の最後尾に並ぶ』この様に仲良く協力して生活している事を見せて頂き、私の感覚で、親鳥ではあれだけテリトリーのある動物が、ヒナの内ではここまで規則正しい協力性があるのか?!と驚かされた。是非、皆様、次の休日は『**水元かわせみの里**』へ行ってみてください。

(下線の部分理解しづらい方は、『**にっぽんのカワセミ**』を読んでください。図柄で説明が入っています。)

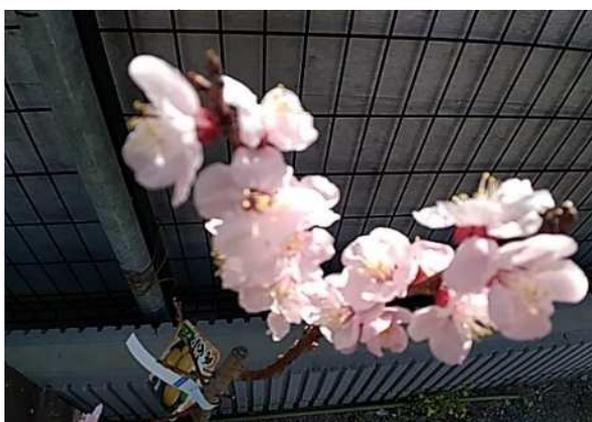
雪の早春から花の初夏へ



3/8 水元3丁目 春の雪 A



雪を着たパンジー B



3/18 梅の春 水元3丁目C



3/16 フキノトウ 水元3丁目D



4/28 サツキ 理科大前 E



5/1 カラー↑F テッセン↓水元2丁目G

3月の初めの雪に驚き、春を梅花の花弁に豊かに受けて、美しく咲き誇っている面持ちに感激しました。(AB)

生命力を迫力満点に見せつけているフキノトウも、茎をのぼし花を咲かせました。(CD)

桜の季節が終わり、4月下旬にはサツキが咲き、5月には我が家の庭でもカラーやテッセンが今年もその妖艶な姿を見せてくれました。(E F) 我が家にこの季節の訪問者であるツバメ夫婦が営巣にきてくれています。※

※我が家のこの季節の家族はツバメ夫婦が営巣し、更に家族を増やしてくれる事です。25年程前から毎年世代を交代し、遠い国から我が家を見定めて、飛来してきてくれることに、感激と感動を覚えます。自然界は「食うか食われるか」の世界でもあり、カラスとの対決も繰り返しながら、その命のバトンリレーを遅しく展開しています。



昆虫探して水元で親しむ自然



5/8 クロアゲハ 水元3丁目①



5/16 ナミアゲハ幼虫 水元3丁目②



5/24 ジャガイモ畑③



ジャガイモの花④



5/27 ドクダミ⑤



5/30 キバナショウブ 水元3丁目⑥



テントウムシの幼虫⑦



ベニバナ⑧

5月は昆虫の活動も活発になる季節です。クロアゲハが成虫に変態していく様子をじっくり観察しました。①
今脚光のハーブのヘンネルにナミアゲハの幼虫が息づいていました。② 3月に区民農園にジャガイモを植えたの
ですが、収穫間近のジャガイモ畑には、モンシロチョウやテントウムシがついていました。畑のお世話をしている
子ども園の園児が、喜んで昆虫探しをしています。③ ④ ⑦

5月下旬の「梅雨の季節到来近し」の日には、白色十字花のそして独特な匂いのするドクダミの花が咲き始めて
います。⑤ この頃あまり見かけることのない「キバナショウブ」や昔から口紅色とか食用油に活用した「ベニ
バナ」の周りにも、蝶々の飛来がありました。⑥⑧ 緑の5月は生き物や昆虫の躍動する季節です。私の願いは、
この美しい自然の営みが未来永劫に続かんことを祈りつつ、たった一つの地球を大切に暮らすことです。

野鳥好き“高”校生による葛飾区の自然観察日記！

氏名：千葉美文 町名：白鳥 調査区：2, 3, 5

令和6年（2024年）の4月より高校に進学しました。これからもよろしくお願ひします。

3月

2日 青戸平和公園にて、ヒヨドリがサクラ（おそらくカワズザクラ）の蜜を舐める。白鳥では、ジョウビタキのメスを確認。

5日 4日にツミの声が聞こえた方向に白鷺公園があったので行ってみると、カルガモがいた。（ツミはいなかった。）

6日 下校中にツミのメスがスズメを捕らえたところに遭遇した。急いでカメラを取ってきて撮影今年初のツミの記録となった。

6日のツミ（青戸公園）→



9日 水元公園にてミゾゴイを確認。いつも通り4番、5番観察窓の間の森にいる。エナガ、ヤマガラ（ベンケイヤマガラ）もいた。

←ベンケイヤマガラ（水元公園。普通のヤマガラとは違い、頬までオレンジ色なのが分かる。）

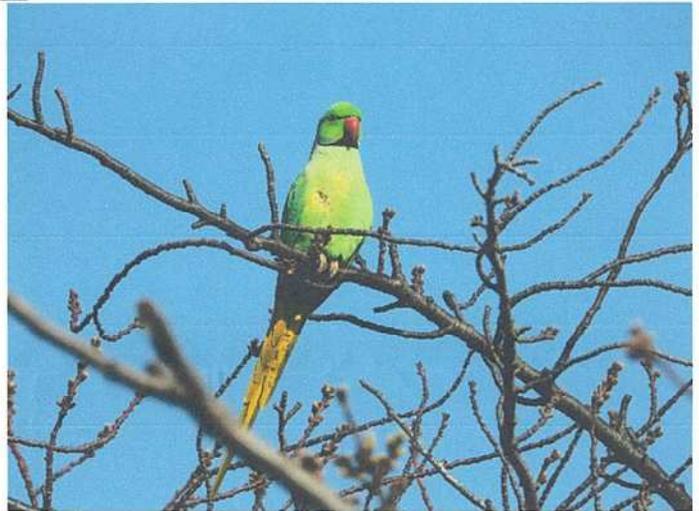
江戸川河川敷にはモズとノスリがいた。

16日 青戸駅にて、イソヒヨドリが縄張りを張っているのを発見。数年前からいるようなので同じ個体なのだろう。

30日 ツミが亀有の団地（上千葉砂原公園近く）で縄張りを張っていることを確認した。

31日 青戸公園の近くでワカケホンセイインコ3羽を確認。上千葉砂原公園でも1羽確認。

ワカケホンセイインコ（上千葉砂原公園）→



4月

10日 青戸平和公園にてツミの若いオスを確認。

←ツミ若オス（青戸平和公園）

13日 水元公園にてオオタカの営巣を確認。エナガも確認。



14日 亀有の団地にて、ツミの交尾を確認。

←桜とツミのオス（亀有の団地）

21日 水元公園にて、オオタカとキビタキとコアジサシを確認。コアジサシは今期初確認。中川ではツグミとツバメを確認。

26日 青戸平和公園にて、ツミの若オス（※全ページを参照）が巣作りをしていることを確認。場所は、例年のペアの中のオスが最初に作る場所だった。

お知らせ

4月より入学した都立科学技術高校にある科学研究部生物化学班では、いきもの記という生物の先生や部員が書くいきものの観察記録が公開されています。私も書いていくのでよろしければご覧ください。（私はもちろん鳥班に入りました。）

URL：https://www.metro.ed.jp/kagakugijyutu-h/pages/2021/04/freepage_2_1_1_2.html

季節の写真集 (3~5月)



「バケツの溜まり水の中に～??」
ハナアブの幼虫 有泉桂子
4/28 東堀切3丁目



「プールから救出した
シオカラトンボ羽化」
シオカラトンボ 有泉桂子
5/17 西亀有小学校



「木の下に小鳥
(キジバト?)
の卵の殻
巣立った
のかな?」
有泉桂子
5/24
堀切7丁目
青葉公園

季節の写真集 (3~5月)



「鎌倉公園はトンボの国」 ギンヤンマのヤゴ
神山隆敬 4/7 鎌倉公園



「春のゾウムシ」 ゾウムシ 神山隆敬
4/7 鎌倉公園



芍薬
鈴木園未
3/19 堀切

ドイツアヤメ
鈴木園未
4/17 堀切



季節の写真集 (3~5月)



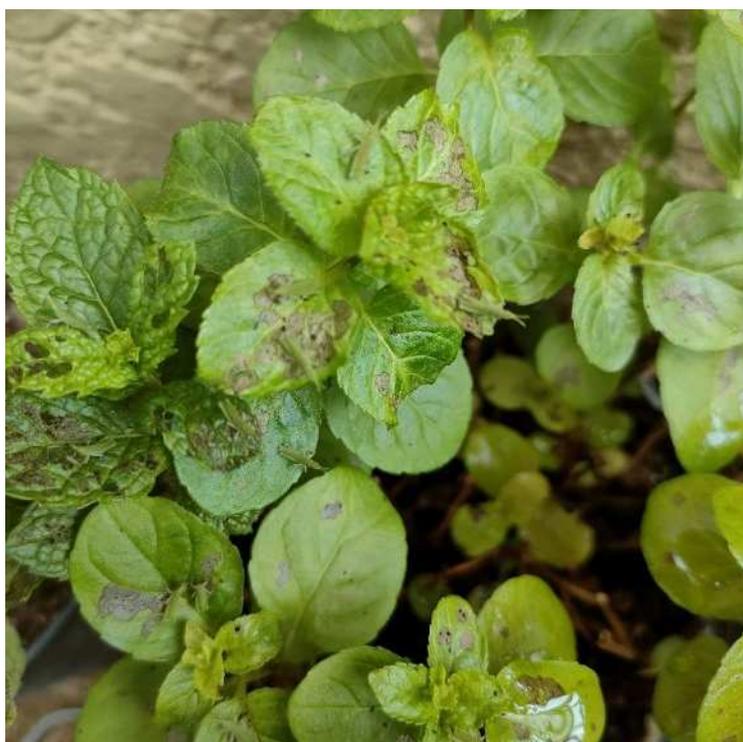
「強風で飛行不能」 Ryu 3/6 お花茶屋

「絡まるつぼみ」 Ryu 5/5 小菅



「種から3年目」 苺 Ryu 4/5 お花茶屋

「ミントに大量の小さいバッタ」
ショウリョウバッタ 鈴木園未 5/31 堀切



季節の写真集 (3~5月)



「貧相なブロッコリー満開」 ブロッコリー
R 3/29 お花茶屋



「家を守る」 ヤモリ R 4/6 お花茶屋

「さよならキクラゲ」 R 5/30 お花茶屋



「新緑の中のカサブランカ 30年咲き」
カサブランカ 佐々木定治 5/31 水元2丁目

季節の写真集 (3~5月)

マガリケムシヒキ 下山田隆
4/28 ごんぱち池



オナガ 下山田隆 3/3 水産試験場

「春のツミ」 ツミ
千葉美文 4/14 亀有

「アジアイトトンボ交尾」
アジアイトトンボ 下山田隆
5/4 水産試験場



季節の写真集 (3~5月)



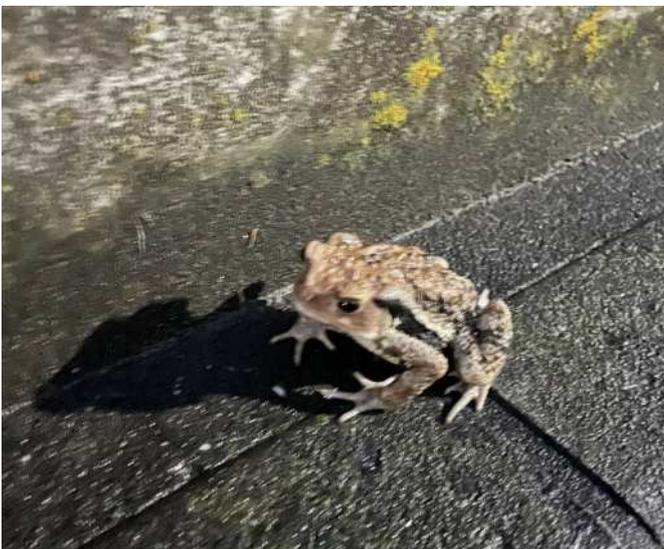
「ただいま寅さん」 ツバメ 瑛ちゃん
4/5 柴又駅改札上

「やったー！雨だ」 ヒキガエル
瑛ちゃん 5/28 金町常盤中学校



「お着替え中です」 ヤモリ 瑛ちゃん 5/12 西水元

「アオスジアゲハの幼虫が落ちていたので、クスノキの枝に戻してあげました」 アオスジアゲハの幼虫
ゆきひめ 5/21 区立いづか公園



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-320

調査回数 調査日 地点		322			備 考
		2024/3/10			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	2 42-44			
2	オ イ カ ワ	1 26			
3	カ ダ ヤ シ		36 15-32		特定外来生物
4	ク ロ ダ ハ ゼ	1 40			
5	デ メ モ ロ コ	2 55-55			
6	ヌ マ チ チ ブ	9 35-62			
7	ボ	16 30-36	1 36		
8	メ ダ カ		9 21-29		
計		6種類31個体	3種類46体	0種類0個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて8種類77個体の魚類が採集されました。（ワンドは水位があつたが魚は採集できず）
- ・ 晴れ、気温12.3℃、水温 本流10.3℃、新八水路13.6℃（14:20頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
(10:00)1.76m (12:00)1.73m (14:00)1.74m

【参加者コメント】

- ・ まだ枯枝色の川沿いの木の中で、シダレヤナギだけが黄緑に芽吹いていました。対岸の土手はもうすぐ、一面の菜の花になりそうです。
朝イチ、エナガがいました。新八で見たのははじめてかも。（KI）
- ・ 水位がそこそこあつたワンドに三人も入つたのに、誰も魚類を採れず。ワンドはどうなってしまったのか。（SI）

【今後の調査日】

4月7日(日) 5月25日(土) 6月22日(土) 7月21日(日) 8月17日(土) 9月1日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-321

調査回数		323			備 考
調査日		2024/4/7			
地点		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	6 34-53			
2	ア ユ	26 63-82			
3	ウ ナ ギ	1 462			
4	オ イ カ ワ	11 56-106			
5	カ ダ ヤ シ		4 17-22		特定外来生物
6	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	6 23-46			
7	ヌ マ チ チ ブ	57 30-78			
8	ハ ス	2 60-86			
9	ボ ラ	52 30-253			
10	モ ツ ゴ		1 45		
計		8種類161個体	2種類5体	0種類0個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて10種類166個体の魚類が採集されました。（ワンドは水位があったが魚は採集できず）
- ・ 曇りのち晴れ、気温24.0℃、水温 本流15.3℃、新八水路20.4℃（14:30頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
(10:00)0.69m (12:00)0.43m (14:00)0.95m

【参加者コメント】

- ・ 数日来的花曇りが晴れて、日焼けするほどの空に、ヒバリが囀りながら飛んでいました。（KI）
- ・ 天気も良く桜が満開でとても綺麗でした。久々に水が浅くて投網が打ちやすく所々でボラの群れが沢山ヒットしていました。（MN）
- ・ 水門開けられテンションただ下がりでしたが江戸川の春告魚によやく会えました。頑張っ
て登るんだよ。（TM）
- ・ 最近、クロダハゼではないかと迷うゴクラクハゼが採れて、困る。（SI）

【今後の調査日】

5月25日(土) 6月22日(土) 7月21日(日) 8月17日(土) 9月1日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」 【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-322

調査次数 調査日 地点	324 2024/5/25			備 考
	本流	新八水路	新八ワンド	
	1	ア シ シ ロ ハ ゼ 7 44-99		
2	ア ユ 1 123			
3	ウ ナ ギ 1 173			
4	オ イ カ ワ 22 60-148			
5	オ オ ク チ バ ス 1 239			特定外来生物
6	カ ダ ヤ シ 2 21-38			特定外来生物
7	カ マ ツ カ 2 81-83			
8	ギ ン ブ ナ 2 31-33	9 20-27	6 23-33	
9	コ イ 1 24	9 17-25	3 23-24	
10	コ ク チ バ ス 8 182-269			特定外来生物
11	ゴ ク ラ ク ハ ゼ 6 40-76			
12	ス ズ キ 1 60			
13	ス ミ ウ キ ゴ リ 2 25-27	5 32-36	10 26-38	
14	デ メ モ ロ コ 33 40-81			
15	ニ ゴ イ 10 134-174			
16	ヌ マ チ チ ブ 80 32-78			
17	ハ ス 3 93-113			
18	ブ ル ー ギ ル 2 92-173			特定外来生物
19	ボ ラ 13 50-450			
20	マ ハ ゼ 4 36-50			
21	マ ル タ 45 17-145			
22	モ ツ ゴ 1 28			
計	21種類245個体	4種類29体	3種類19個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて22種類293個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温24.8℃、水温 本流24.5℃、新八水路22.4℃、新八ワンド19.9℃（15：00頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
(10:00)1.64m (12:00)1.51m (14:00)1.53m

【参加者コメント】

- ・ 水面にボラが群れているところに、キジバトがストレスを飛んだら、バシャーいって逃げ散っていました。あんな大きなもの、ミサゴだって無理じゃないかと思いました。ヌマチチブの胸びれがほんのり黒くなっていて、地味だけれどこいつらも婚姻色なんだろうなど。（KI）
- ・ バスがたくさん採れました。放卵しているのもいました。美味しくいただくことにします。（TM）
- ・ 午後から調査する人が増えたこともあり、この時期にしては驚くほどの種類が採れた。水路、ワンドのどこにもメダカが確認できなかったのが心配。（SI）

【今後の調査日】 6月22日(土) 7月21日(日) 8月17日(土) 9月1日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

環境課からのお知らせ

★自然環境レポーターを募集します★

本区では、多くの方に自然や生きものへの興味を持ってもらうことを大切だと考えています。

自然環境レポーターの制度はそのような趣旨に基づいており、今まで自然観察等をされたことがない方でも気軽に楽しんでいただけるものになっています。

今後もこの制度をきっかけに、身近な自然や生きものに興味を持っていただける方々をますます増やしていきたいと考えております。

今年度の自然環境レポーターの新規加入者募集も始まります。この機会にぜひ、皆様のお友達や知人の方などを自然環境レポーター制度に誘っていただき、一緒に研修会に参加してみませんか？そして、環境レポートを友人・知人と相談しながら作成すると、レポーター活動もより楽しめるのではないのでしょうか。

もし、ご紹介していただけるお友達や知人の方などいらっしゃいましたら、事務局までお知らせください。よろしく願いいたします。

【申込期限：令和6年7月26日（金）】

★自然環境レポーターの更新時期です★

自然環境レポーターの任期は、9月1日から1年間です。現在のレポーターの皆様におかれましては、引き続き活動していただければ幸いです。後日、意思確認の通知を郵送いたしますので、必ず返信または、自然環境係までご連絡くださいますようお願いいたします。

★自然環境レポーター委嘱式・研修会★

年に1度の「自然環境レポーター委嘱式・研修会」の実施を、9月7日（土）の午前10時～12時に、亀有地区センターにて予定しています。

詳しくは、後日ご案内いたします。レポーターの皆さまのご出席をお待ちしております。

環境課からのお知らせ

★鳴く虫の女王「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会★

「鳴く虫の女王「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会」の実施を、以下のとおり区内のカンタンの里で予定しています。詳しくは、8月下旬頃に掲載予定の広報かつしかをご覧ください。

【日時】令和6年9月中旬

【場所】西亀有せせらぎ公園（西亀有1-10-1先）

【日時】令和6年9月27日（金）

【場所】青戸平和公園（青戸4-23-1）



★新ハ水路で魚類調査を行います★

【日時】7月21日（日） 8月17日（土） 9月1日（日）
いずれも10時～16時ごろ

【場所】江戸川河川敷 ※事前連絡をお願いします。

【持ち物】着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス
詳しくは、HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>) をご覧ください。



★綾瀬川で水辺環境調査を行います★

採取した生きものを展示して、その場で調査結果の概要を説明します。
直接会場へお越しください。 駐車場はありません。

【日時】令和6年7月9日（火）〈予備日7月23日（火）〉
14時～14時半（調査報告）

【場所】綾瀬川（東四つ木避難橋付近）

《お詫びと訂正》

「水辺のふるさとかつしか」春号（第 328 号）の P. 34-35 に誤りがありました（ネズミの写真の向き）（オオイヌノフグリとムクドリの撮影場所が逆）。正しくは以下のとおりです。

「ヘチマを食べに窓の外に現れたネズミ」
有泉桂子 12/3 堀切 7 丁目の住宅



「オオイヌノフグリ」 有泉桂子
2/3 柴又、新八水路近くの草原



「ムクドリの集団」
有泉桂子 1/26
東堀切 3 丁目の
都営住宅前の電線

ここに深くお詫びし、訂正させていただきます。
※ホームページは差し替え済みです。

本号にご協力いただいた皆さま（敬称略）

R	アナログバーバ	有泉桂子
石戸雅彦	石鍋壽一	瑛ちゃん
江戸川の小鮒	江良ヒデ子	大谷悦子
神山隆敬	K・N	K・T
佐々木定治	鈴木園未	下山田隆
関口雪枝	高橋雅子	田村ひろ子
千葉美文	となり	ひまわり
広瀬温	Ryu	ゆきひめ

自主生物調査団（編集：一澤成典さん）

ありがとうございました！

「水辺のふるさとかつしか」第329号
（葛飾区 自然環境レポーター通信第281号）
令和6年6月末日 発行
葛飾区環境部環境課自然環境係
〒124-8555 葛飾区立石5-13-1
代表電話（3695）1111
内線 3522～3
直通電話（5654）8237
FAX（5698）1538



「水辺のふるさとかつしか」の内容について、
お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。